

独立行政法人森林総合研究所の平成18事業年度評価結果の主要な反映状況

1. 役員人事への反映について

役員人事への反映	独立行政法人評価委員会による平成18年度の総合評価が「A」評価であり、中期計画に対して業務が順調に進捗していると判断されたこと等を踏まえ、評価結果による特段の人事は行わなかった。
----------	---

2. 法人の運営、予算への反映について

評価項目	18事業年度評価における主な指摘事項	平成19及び20年度の運営、予算への反映状況
業務運営に対する総括的な意見	研究・開発が着実に進められているだけでなく、行政との連携も図られている点は評価できる。今後とも、中期計画に従うとともに、林業者、林産業等の意見を幅広く聴取して、有益な研究を展開してほしい。 日本の森林研究の中央機関として、長期的視野にたった研究を戦略的に推進されることを望む。 より大きな成果を得るために、研究の重点化、人・資金等の資源の集中化の仕組み作りを進めてほしい。	公開講演会の開催、アグリビジネス創出関連のイベントへの積極的な参加・出展など、研究成果の発信と林業者・林産業者など各界からの意見・情報の収集を図った。 中長期的な研究戦略ロードマップ「2050年の森」を策定し、研究推進の礎にするとともに、HP等で広く公表し、研究所の研究推進方向を明確にした。 研究資源の集中化を進め、交付金プロジェクトにより、間伐効果、木質バイオマス、中国の木材貿易等、行政ニーズの高い研究を推進している。また、研究領域間で人事異動を行うなど、限られた人的資源の中で、適切かつ効率的な人的配置の検討を進めている。
業務運営の効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	(研究資源の効率的利用及び充実・高度化) 外部資金の獲得、施設・設備の効率的な活用、研究員の能力アップのための研修・サポートを積極的に実施していただきたい。	外部資金獲得に向けた戦略委員会を立ち上げて、研究者から出された課題化素材について若手研究者で議論して意見をまとめ、今後プロジェクト化するべき5つの方向性を打ち出した。 また、科研費に関しては、電子申請への切り替えに伴う混乱を避けるなど、全所的に説明会を開くとともに個別の指導で支援を行った。 また、男女共同参画室を設置して、文部科学省女性研究者支援モデルプロジェクトを開始し、家族責任を果たす研究者の研究支援を行った。

国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	(研究成果の公表及び普及の促進) 研究の成果が十分に利活用されるような取り組みを行っていただきたい。	研究および事業から得られた成果を広く紹介するために、「独立行政法人 森林総合研究所の広報活動方針」を新たに策定した。それに基づき、国民の森林、林業、木材産業への理解を深めていくために、当所の研究および事業の成果をわかりやすく解説した一般向け広報誌を新たに創刊した。
財務内容の改善に関する事項	(法人運営における資金の配分状況) 随意契約の透明性の確保に努められたい。	平成 19 年 10 月 1 日に関係規程の改正を行い、随意契約限度額を国と同額の基準に引き下げている。随意契約の基準及び限度額を超える随意契約についてはホームページ上で公開している。
その他農林水産省令で定める業務運営に関する事項等	(独立行政法人林木育種センターとの統合による事務及び事業の一体的実施) 森林バイオ研究センターの活動だけに留まらず、新しい森林総合研究所として良い効果が上がるような体制づくりを期待する。	研究分野と林木育種分野の研究開発の連携の促進を図る観点から、遺伝・育種関連分野連絡会を設置するとともに、情報の共有化、共同研究・事業、広報・PR、イベントの開催、施設や実験林の共同利用などの状況について点検を行い、融合計画を策定した。